

特集2

がんはひとりでも がんばらない

がん診療相談支援窓口の取り組み

当院では、平成十八年十月からがん診療相談支援窓口を開設して、がんに関するあらゆる相談を無料でお受けしております。

担当は外科医師である私と緩和ケア認定看護師が行っております。また、相談内容によっては臨床心理士、ケースワーカーも参加しております。

今までの相談内容は、胃痛、大腸癌、肝臓、食道癌、乳癌、子宮癌や多発性骨髄腫など多岐にわたる痛に関して、現在の診療に対する不安、他の治療法、今後の病状、緩和ケア、そして医療費や介護について様々です。

今まで面談をして気づいたこと



外科医師 田口 宏一

のひとつとして、医療者、特に医師と患者さまやご家族の間に大きな認識のずれがあるということですね。診療内容については、ほとんど

の患者さまが最善の治療を受けたい、医師の説明不足や説明内容を十分理解できていなかったために、患者さまやご家族の方が不安な状態にいるということでした。

診療行為、特に手術では術後の合併症や後遺症の問題があります。医師は術前、術後に十分な説明をしています。患者さまは、病状等が思わしくない時など他の患者さまと比較したり、本やインターネットで調べたりして不安になり、医師や病院に対して不信感を持つこともあります。医療は医師と患者さまとの信頼関係の上に成り立っています。患者さまは手術などの診療行為を医師に任せられた時点でその医師を信頼したはずですが、がん診療相談支援窓口において、私たちは第三者的な立場で対応しており、患者さまの不安が少しでも軽減し、現在の診療に

対しての理解が深まり、医師や病院に対しての信頼関係が回復されればとの思いで取り組んでおります。

また、患者さまの多くが健康食品などの民間療法に多額の出費をされています。この点に関しても正しい医学情報を伝えることが重要だと考えております。

四月からは、がんに関する市民講座を開催する予定です。その際には多くの方々に参加頂きたいと思っております。



がんに対する不安に私達が

チームで応援します



ホスピスケア(緩和ケア)認定看護師 森 佳子

開設後、砂川だけでなく空知管内のがん治療を受けている方やそのご家族や友人の方などの相談を受けてきました。相談の中には治療方法、症状、がん手術後のリンパ浮腫、高額な治療費に対してや、本人に告知するべきか悩んでいるご家族の方からの相談などありました。

最近では、がんであっても出来るだけ自宅で、その人らしい生活を送られるようにという傾向にあります。治療に関しても、医師から説明を聞きご自分でどうする



がん診療相談支援窓口の様子

かを決めなければいけないという事も多くなっています。治療の副作用や後遺症を抱えながら「退院して自宅で過ごしてください」と言われて困ってしまう、がんと診断され治療方法を選択しなければならぬ、また治療費が高額で困っているなど不安や心配事など、さまざまな悩みを抱え

ている方が少なくないと感じています。「がん診療相談支援窓口」はそのような方たちが気軽に何でも相談していただくための窓口として開設されました。

日本では三人に一人ががんになり、五人に二人はがんで命を落とすといわれています。それほどがんは身近なものなのです。メディアではたくさん情報があふれ、何を信用していいのかもわからず迷い悩んでいる方も多くいらっしゃると思っています。私たちは相談者の方の話を聞き情報や知識を提供し一緒に考え、問題を解決するお手伝いをさせていただきます。四月からは電話での相談やがんに関する公開講座などを実施していく予定になっています。これから身近なところでサポートできる場を広げていければと思っています。

- 相談内容 各種がんに関する一般的な医療情報や療養に関するもの
- 相談支援日 毎週火曜日 午前九時～十一時まで
- 相談支援者 地域医療連携部長(外科医師)、ホスピスケア認定看護師
- 対 象 入院・退院しているがん患者さまやそのご家族
- 相談窓口 本館二階 地域医療連携室

※ホスピスケア認定看護師とは
ホスピスケア認定看護師は、がん患者とご家族への支援に関する専門的知識および技術を有し、日本看護協会の定める研修を受け、「ホスピスケア認定看護師」認定試験に合格、認定された看護師です。
ホスピスケア認定看護師は「がん」という病気と闘いながらも最後までその人らしい人生を送れるように、あらゆる面において、生きることを患者さんと一緒に考え、支えていく仕事です。